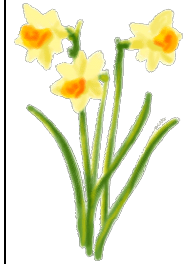


# コイノニア



みなさん、明けましておめでとうございます。1月になりました。2021年という新しい年がスタートしました。そして、私たちの学校にとっては創立記念日を迎える大切な1月です。そんな1月の聖句は、使徒言行録20章35節です。

## 「受けるよりは与える方が幸いである」

この聖句は、本校の創立者であるコーネリア・ジャジソン宣教師が大切にしていた聖句です。クリスチャンの間では「愛唱聖句」という表現を使いますが、まさに、ジャジソン先生の愛唱聖句です。

ジャジソン先生は、貧しさのために学校に通うことができなかった子どもたちのために、なんとかして学ぶ場所と時間を与えたいと強く願い、夜学校の設立を実現しました。1891年1月14日。25人の生徒たちが集まってスタートした本校の歴史も、今年で130年目を迎えます。「受けるよりは与える方が幸いである」という聖句をいつも大切にしていたジャジソン先生は、自分のことよりも学校に通う子どもたちのことを思い、特にその子どもたちが創る未来に希望をもって、日々の学校生活(教育活動)に励まれていました。ジャジソン先生が夢見た未来に、私たちがいるのです。ジャジソン先生が他者に与え続けたものが途切れることなく受け継がれ、今、私たちの学校生活が守られています。自分自身のことよりも、他者のことを考える生き方はそう簡単ではありません。本校の歴史の中でも、戦争中など、この生き方が難しい時代もありました。それでも私たちの学校は、「隣人を愛する」というイエスの教えを守り続け、いつの時代でも他者を愛する心を大切にすることを止めませんでした。

私たちは今、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて大きく変わってしまった日常を過ごしていますが、そのような中でも創立者の思いを受け継いで「受けるよりは与える方が幸いである」という聖句を大切に、「隣人を愛する」生き方というものを、私たちなりに実現していきたいと思えます。共に新しい一歩を踏み出しましょう！

## 聖書・キリスト教の“はじめの一歩” #10 「公現日: Epiphany(エピファニー)」

「公現日」とは、マタイによる福音書で記されている占星術の学者たちが、生まれたばかりのイエスに会いに来た日としてお祝いされてきました。キリスト教の暦の中では1月6日とされています。占星術の学者はユダヤ人から見て“異邦人”、つまり外国人ですが、公現日とはイエスがユダヤ人のためだけではなく、“全ての人”を救うためにお生まれになったということを伝える大切な日です。なぜなら“全ての人”には、“私たち”も含まれているからです。

日本ではクリスマス(12月25日)が終わると、あっという間にお正月の飾り付けに変わりますが、ヨーロッパなどのキリスト教の国々では、年が明けても1月6日まではクリスマスの飾りをしています。日本の教会も公現日まではリースを飾ったりしていますが、決して片づけるのを忘れていないわけではないのですよ。



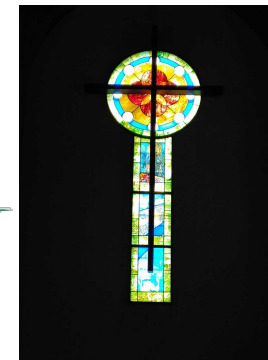
## 1月の予定

月間聖句 「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒言行録20:35)  
「創立者の涙を知る」

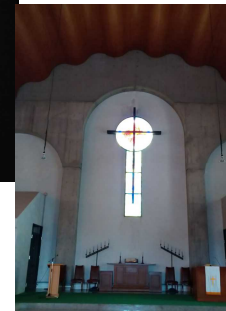
月間テーマ 創立記念礼拝

13日(水) 1月14日の創立記念日を覚えて礼拝を守ります。今回は生徒中心の礼拝を予定しています。お祝いに紅白の労研饅頭も配布されます。(なお、新型コロナウイルス感染防止対策による3密を避けるため、早天礼拝と芋がゆの振る舞いは中止させていただきます。)

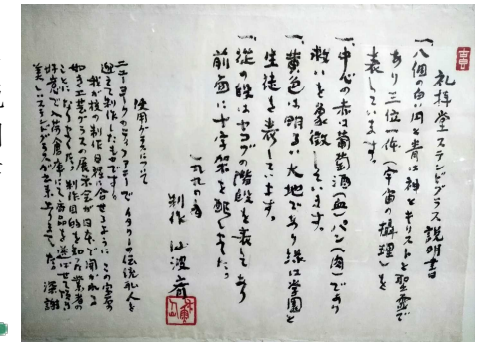
## JONAN's History #10 チャペルのステンドグラス



天気や時間によって見え方が変化します。



→ 説明書  
デザインは第五代校長の仙波齋先生です。



本校チャペルのステンドグラスは、ニューヨークのティファニーで、イタリアの伝統職人によって制作された、とても立派なものです。私たちの宝物です！！

## ☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆

クリスマスの夜(2020/12/25)、本校礼拝堂からトーンチャイムの生演奏がテレビ中継されました。いつもは校内の礼拝奉仕が活動の中心ですが、クリスマスにはテレビを通して県内のみなさんにクリスマスの喜びをお届けすることができました♪



～演奏した曲～

↑本番中↑

- 1 「The Legacy of Violet Evergarden」
- 2 「アビニヨンの橋の上で」
- 3 「Silent Night」

→ 「ヴァイオレット・エヴァーガーデン」(作曲: Evan Call)の演奏にちなんで、図書館にある原作小説を飾りました。



→ リハーサルの様子 ←

